



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年7月3日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

「ジェネレーション・レフト」の胎動

3日(日)=1、3面

かつての学生運動は内ゲバや爆弾事件を起こし、社会から見放されていきました。今の社会運動では対話や説得がキーワードになり、過激な言葉を使うことを敬遠しています。しかし、気候変動問題

などに携わる若者の集会では「対立」といった言葉で社会変革を訴えています。名古屋大大学院生のヒル・ダリア・エイミーさん=写真=は問題解決にはお願いするだけでは無理だとも主張しています。

欧米では「ジェネレーション・レフト（左翼世代）」と呼ばれる若者たちが政治に影響力を与える勢力になっています。日本における「ジェネレーション・レフト」の胎動にベテラン記者が迫ります。

特集 **ワイド**

理想はどこへ 参院選の「傑物」たち

4日(月)、5日(火)、6日(水)=夕刊特集ワイド

参院選も中盤を迎えますが、有権者の熱気はいま一つといわれます。では戦後間もない1947年の第1回参院選はどうだったかといえ、ば、「傑物」たちが理想を語り、新国家建設を目指したといえます。

そこで、当選した作家の山本有三、歴史家の羽仁五郎、消費者運動の先駆者・奥むめおの人生を振り返りながら、令和の参院選をスケッチします。
細川護熙元首相=写真=や評論家の樋口恵

子さん、遺族や関係者取材しました。



もしアジアと欧州と中東で同時に大きな紛争が起きたら米国はどこを助けるのか？ 冷戦時代から外交官の間で続くクイズです。日本はアジアだと思っ



スコープ 同時多発紛争を防ぐには

7日(木) || オピニオン面

も、米国には守るべき同盟国が欧州にも中東にも存在します。正解は、そうした事態を起こさせないことです。ロシアがウクライナを侵略し、台湾を

巡る中国と米国の緊張が高まり、イランの核協議は難航しています。次なる危機を防ぐにはどうすればいいのか。専門編集委員が考えます。

論点

こども家庭庁発足へ

6日(水)=オピニオン面

少子化のほか、虐待や貧困、孤独・孤立などの問題が山積する中、子ども政策の司令塔となる「こども家庭庁」が来年4月に発足します。子どもの権利を保障する理念法「こども

基本法」と、児童養護施設や里親制度の下で暮らした若者の支援を拡充する改正児童福祉法も先の国会で成立しました。新組織の誕生で、子ども政策はどう変わるのでしょうか。



こども家庭庁設置法が成立し、一礼する野田聖子こども政策担当相=国会内で6月15日

竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞は4日、オンラインイベント「政治ってオッサンのものなの？」ぶっちゃけ、教えてください！」を開催します。街頭演説や政見放送を見ても、年齢層高めな候補者だらけ。政治を動かしているのはオッサンなのか？ と思っ



新毎日

150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年